2021年度　助成決定事業（活動期間：2021年4月1日～2022年3月31日）

◎調査研究助成 《個人研究》

研 究 課 題	研 究 者	研究者所属	助成金(千円)
第二次世界大戦後のラオスにおけるナショナリズムと連帯の可能性 ：東南アジア、フランス植民地帝国を中心に	赤崎　眞耶	モンペリエ第三（ポール・ヴァレリー）大学 第58博士学院博士後期課程	500
プラナカン・インディアンとは誰か－マレーシアの「三大民族」集団の 狭間に生きるマイノリティの人類学的研究	柏　美紀	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士前期課程2回生	900
ニューカレドニアにおける場所性とその現代的変容に 関する映像人類学的探究	Zoe Selane Schellenbaum	東京藝術大学大学院 美術研究科 油画専攻　博士3年生	970
排除のダイナミクス －1980年代におけるインドの政党とマイノリティ－	岡山　誠子	ロンドン大学 東洋アフリカ研究学院 （SOAS)博士課程	850
外地日本における女学生教育・文化の研究 －「満洲」の日本人女子教育に着目して－	梅原　優	筑波大学大学院 人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻3年	500
都市開発による政治変動 －フィリピン・マニラ郊外への移住政策と政治の変化に着目して－	藤原　尚樹	神戸大学 非常勤講師	750
電信事業から見る20世紀初頭の中華民国の地方と革命勢力	白鳥　翔子	お茶の水女子大学 人間文化創成科学研究科 博士後期課程1年	420
都市における自己変容の経験としての芸術実践 ：ラオスの首都ビエンチャンにおける、若手アーティストに関する人類的研究	大村　優介	東京大学大学院 総合文化研究科 博士後期課程	660
1960年代以来インドネシアにおける解放の神学と 華人神学の伝統の生成に関する人類学的研究	王　作造	京都大学大学院 文学研究科 博士後期課程	600
カンボジア・クメール人の食の存在論 ―食と健康を巡る知識・実践と栄養状態改善のための国家事業―	稲垣　美帆	京都大学大学院 人間・環境学研究科 修士課程	580
戦後日本社会の国民再編成過程における「引揚者」の主体形成の ポリティクス－満洲からの「引揚者」を中心に－	劉　コウ	名古屋大学 人文学研究科 博士後期課程	520
物流と交易から見た五胡十六国時代像の再検討	峰雪　幸人	早稲田大学文学研究科 博士後期課程	500

調査研究助成　合計　12件　7,750千円

◎国際学術交流助成

企 画 名	研究者	研究者所属	助成金(千円)
「アジアの市民社会」 ：ホノルル国際会議－市民社会の多様性を探る	小川　晃弘	メルボルン大学 アジアインスティチュート教授	1,900
The 5th UKNA International Symposium "Gentrification in Asian Cities"の共同開催	任　哲	ジェトロ・アジア経済研究所 研究員	1,460

国際学術交流助成　合計　2件　3,360千円

◎出版助成

出 版 内 容	研究者	研究者所属	助成金(千円)
『近代ムスリム市民社会の成立と「女性問題」 －英領パンジャーブにおけるイスラーム擁護協会の事例から－』の刊行	水澤　純人	京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 特定助教	1,200
How the Red Star Rose ：Edgar Snow and Early Images of Mao Zedong（英語版） （赤い星は如何にして昇ったか－エドガー・スノーと毛沢東の初期イメージ）	石川　禎浩	京都大学人分科学研究所 教授	1,000
ハレルヤ村の漁師たち－信仰と癒しとスリランカ内戦	初見　かおり	九州大学 広報本部学術推進准主幹 （サイエンスコミュニケーター）	1,200
渡豪日本人戦争花嫁の語り 『Michi's Memories: The Story of a Japanese War Bride』の 日本語版出版	田村　恵子	オーストラリア国立大学 アジア太平洋学部 非常勤講師	1,200

出版助成　合計　4件　4,600千円

【助成事業（1990年～2021年）通算助成実績】
助成件数　550 件
助成者数　359 名
助成金額　600 百万円

2022年度
アジア・オセアニア研究助成
調査研究/国際学術交流/出版
応募要項

テーマ

アジア・オセアニア諸国・地域に関する人文・社会科学分野（社会、文化、歴史、政治、経済等）の調査・研究活動や国際会議等の国際交流活動、出版等の啓発・広報活動等への助成

助成の趣旨

当財団は、「人と人のふれあい」を国際交流の原点としつつ、我が国とアジア・オセアニア諸国との相互理解の増進に寄与していくことを目的として設立されました。近年人口減少期に突入した我が国にとって、近隣であるアジア・オセアニア諸国の人々との関係は交流の時代から共存共栄への時代へと変わりつつあり、財団の果たすべき役割も重要度が更に増しているものと認識しております。

なかでも助成事業は、設立時より30年継続して行ってきたメイン事業であり、アジア・オセアニア地域における、人文・社会科学の学問領域において、できるだけ広い分野を対象とし、なかなか助成の手が届きにくいような事業の発掘や、時代の変化に伴う新たな研究対象へも支援しております。特に当制度の特徴として、調査研究費が得られにくい環境にある若手研究者への助成へ力点を置いており、アジア・オセアニア地域との相互理解と更なる関係深化へ未来志向で貢献していきたいと考えております。

応募期間

2021年6月7日～2021年7月30日（必着）

公益財団法人
りそな アジア・オセアニア財団
RESONA

1. 2022年度　助成プログラム

A.調査研究助成

アジア・オセアニア諸国・地域に関する社会・文化・歴史・政治・経済等の人文・社会科学分野の調査・研究活動へ助成します。
（若手研究者の育成を目的とした、当財団が設立時から継続しているプログラム）

＜応募資格＞

（1）日本の※大学又は研究機関等に所属する方からの推薦が得られる個人

※原則として教授、所属長、責任者クラスの方

（2）原則として2022年4月1日現在で※年齢が満39才以下の方

※共同研究の場合は、代表者（申込者）の年齢

＜助成期間＞

1年もしくは2年（事業開始日：2022年4月1日）

※海外渡航が困難な場合は、期間延長を協議のうえ対応します。

※期間2年の場合は、2年目も申請書を提出して選考を受けていただきます。

＜助成金額＞

個人研究　50万円～100万円（万円単位）

共同研究　50万円～200万円（万円単位）

※金額は期間1年に対するものです。

＜採択数＞

助成予算範囲内で、研究内容の優劣を加味して採択を決定します。
（過去3年と予算規模は変わらず）

～参考：過去3年の採択状況～

（個人研究）	申込件数	採択件数	採択率
2021年度	81件	12件	14.8%
2020年度	85件	15件	17.6%
2019年度	78件	14件	17.9%

（共同研究）	申込件数	採択件数	採択率
2021年度	5件	1件	20.0%
2020年度	11件	0件	ー％
2019年度	11件	2件	18.2%

B.国際学術交流助成

アジア・オセアニア諸国・地域に関する社会・文化・歴史・政治・経済等に関する国際会議・シンポジウムの開催を支援します。

＜応募資格＞

日本の※大学又は研究機関等に所属する方からの推薦が得られる個人

※原則として教授、所属長、責任者クラスの方

＜助成期間＞

1年（2022年4月1日～2023年3月31日）

※開催が困難な場合は、期間延長を協議のうえ対応します。

＜助成金額＞

50万円～200万円（万円単位）金額は、案件毎に査定します。

＜採択数＞

申込件数に応じて過去3年と同程度の採択数。

～参考：過去3年の採択状況～

	申込件数	採択件数	採択率
2021年度	10件	2件	20.0%
2020年度	11件	4件	36.4%
2019年度	16件	4件	25.0%

C.出版助成

アジア・オセアニア諸国・地域に関する社会・文化・歴史・政治・経済等の調査研究成果にかかる出版物の刊行を支援します。

＜応募資格＞

日本の※大学又は研究機関等に所属する方からの推薦が得られる個人

※原則として教授、所属長、責任者クラスの方

＜助成期間＞

1年（出版物刊行期限：2023年3月31日）

＜助成金額＞

50万円～120万円（万円単位）金額は、案件毎に査定します。

＜採択数＞

申込件数に応じて過去3年と同程度の採択数。

～参考：過去3年の採択状況～

	申込件数	採択件数	採択率
2021年度	26件	4件	15.4%
2020年度	25件	2件	8.0%
2019年度	18件	2件	11.1%

2. 概　要

1）選考基準

下記事項を総合的に勘案し、採択可否を判断します。

1. 研究課題や手法の新規性・独創性と当該分野の研究への貢献
2. 研究計画と調査準備の周到性、研究活動の実施可能性、研究調査経費の妥当性
3. 研究成果の国内外学会での発表、論文作成などの公開方針

2）助成金の使途制限

助成金の使用は、助成対象事業の実施に直接必要となる経費とします。
以下の費用は助成の対象となりません。（日当は対象となりません）

1. 営利を目的とした調査研究活動
2. 個人が一般的に使用するパソコン等機器類の購入費用
3. 学会等への出席に係る経費

3）助成者の義務

財団と『覚書』を締結し、活動計画書及び支出計画書に沿って活動いただきます。（計画変更は、事前に財団の許可が必要となります。）活動終了後は、活動完了届、活動報告書、活動内容要約、会計報告書を提出いただきます。

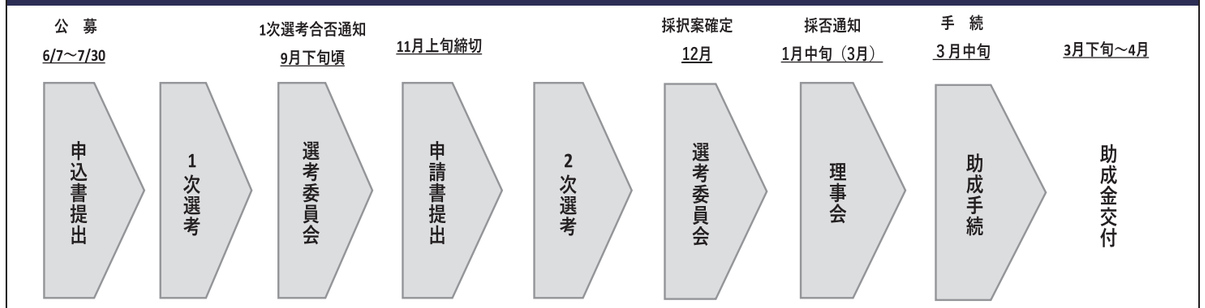
4）選考方法

助成事業選考委員会の委員により2回の書面審査を実施して採択案を選出し、理事会で決定します。

5）申込・申請受理ならびに採否通知について

申込書類および申請書類の受理、ならびに1次審査合否通知および助成採択・不採択通知は、電子メールで行います。（一部捺印書類のみ郵送）

6）公募から助成金交付までのスケジュール



7）その他

・過去に財団から助成を受けた方は、同じ区分の助成を再度受けることは出来ません。

・当該事業年度において、日本学術振興会の科研費を代表者として受けられることが決定した方は、原則として当財団助成は辞退いただきます。

・助成活動成果の著作権、特許権等は助成者に帰属し、成果を公表する場合には財団の助成があった旨を公表するものとします。
また財団は、助成活動の成果を情宣物やHP, SNS等で公開します。

3. 応募方法

所定の「申込書」（Excel）を作成し、完成後のExcelシートをそのまま財団へ電子メールで送付して下さい。受信後、受付確認メールを返送します。
送付された申込書にて、1次選考へ入ります。

＜ 申 込 書 ＞　財団HPよりダウンロードして利用下さい。
https://www.resona-ao.or.jp/

※Excelデーターは財団にて活用致しますので、フォームは崩さないでください。

＜送付先ｱﾄﾞﾚｽ＞　josei@resona-ao.or.jp　（申込受付専用）

＜ 応 募 期 間 ＞　**2021年6月7日～2021年7月30日**

（注意事項）

・助成条件としている推薦書の提出は、1次選考合格後の申請書提出時に依頼します。申請書提出時は、所属組織の承諾も必要となります。

・他の助成制度と併申していただいても結構です。但し科研費に合格された場合については、当財団助成は辞退いただきます。

・採否結果へのお問い合わせには応じ兼ねますので、ご了承下さい。

☆ 申込書にご記入いただいた個人情報は、選考及び選考結果の通知のために使用するもので、個人情報保護法および関連する法令・規範にもとづき、厳重に管理します。

【問い合わせ先】　公益財団法人 りそなアジア・オセアニア財団　（担当：武部、杉浦）
〒541-0051　大阪市中央区備後町2丁目1番8号　備後町野村ビル7階　　電　話（06）6203－9481　E-Mail：info@resona-ao.or.jp